

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

1 平成27年度 重点評価項目

- ①キャリア教育の推進
- ②挨拶の励行
- ③体力の向上
- ④家庭・学校・地域の双方向の援助による教育の推進

2 1回目評価

評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定		各項目にねらいを定めた取組の計画・実施		取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定		アンケート実施結果、その他指標の結果について整理		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果				
1 確かな学力	援プランにもとづく教育実践	インクルーシブ教育システム構築という新たな教育課題を先取りし、平成16年度より、障害種別や学校種を超えた新たな特別支援学校の教育実践を推進してきた。地域の小・中学校と連携協働し、地域に支えられ・地域とともに・地域に発信する総合支援学校として学校運営協議会を設置し、地域・保護者が参画する学校経営を実現してきた。10年にわたる地域制総合制の実践を改めて検証し、次の10年に向けての課題と展望を明らかにする。	・個別の包括支援プランの更新状況	・4校合同研究発表会実行委員会及び各部会を随時開催。 ・若手を中心とした4校合同研究発表会校内プロジェクト委員会を立ち上げ、毎月1回、委員会を実施。 ・昨年度に引き続き、「できますシート」を中核に据え、1年間の継続的な授業研究会(できます会)を実施。 ・「情報バンク」に関しては、全児童生徒分のデータを入力し、本格的な活用に向けて準備中。 ・参観日の保護者アンケート	⇒	4校合同研究発表会の取組を通して、本校で継続的に取り組んできた実践を、「双方向の援助による新たな地域の創造」や「児童生徒は地域に生きる一人の生活者である」という観点で見直すことができつつある。 「できます会」を通して、子どもの課題が明確になり、より適切な支援・手立てが行われるようになり授業改善が図られている。これまで以上に、できる子どもの姿が見受けられるようになってきた。 「情報バンク」に概ね全児童生徒のデータを入力できつついで、児童生徒の育ちやこれまでの指導支援を踏まえた指導の充実やより有効な情報の伝達が期待できる。 各学部において、ケース会議やユニット会議が充実してきている。また、各教員の取組を学部において実践発表する機会も設定されるようになってきた。	⇒	毎年、一人一人の児童生徒の状況に応じた丁寧な取組がさらに推進されていると感じる。 「できる」からスタートするキャリアアップ教育の取組について、「できますシート」の実施や「情報バンク」の取組等、具体的に取り組まれており、着実に成果を上げていると思う。 学校で学んでいることを地域で発揮・発表できる場の設定が必要だと思う。
	・わかる、できる「わかる」授業の実践		・ユニット会議、研修会実施状況	・昨年度に引き続き、「できますシート」を中核に据え、1年間の継続的な授業研究会(できます会)を実施。 ・「情報バンク」に関しては、全児童生徒分のデータを入力し、本格的な活用に向けて準備中。 ・参観日の保護者アンケート	⇒	⇒	⇒	
	・キャリアアップ教育の推進		・「情報バンク」の作成状況	⇒	⇒	⇒	⇒	
	・指導力の向上		・参観日の保護者アンケート	⇒	⇒	⇒	⇒	
	高等部教育課程の変更		・参観日の保護者アンケート ・教職員対象アンケート	⇒	⇒	⇒	⇒	
	・地域制総合支援学校4校による4校合同研究発表会の開催		・教職員対象アンケート ・歴代PTA会長対象アンケート	⇒	⇒	⇒	⇒	
	・芸術活動の充実	・地域作品展の開催 ・玄関ギャラリーの設置	・創作活動に関するユニット数、授業数 ・児童生徒の作品数	⇒	⇒	⇒	⇒	

自己評価		学校関係者評価	
評価日	平成27年10月21日	評価日	平成27年9月29日
評価者・組織	経営者会議	評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
分析(成果と課題)		自己評価に対する改善策	
評価日	平成27年10月21日	評価者・組織	経営者会議
評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

1 平成27年度 重点評価項目

- ①キャリア教育の推進
- ②挨拶の励行
- ④家庭・学校・地域の双方向の援助による教育の推進

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日 平成27年10月21日	評価者・組織 経営者会議	評価日 平成27年9月29日
2 豊かな心	・挨拶の励行	・生徒会を中心とした挨拶の励行	・挨拶の実施状況	・毎朝、生徒会の生徒が積極的に各学部の児童生徒に挨拶するなど、生徒会による挨拶励行は毎日実施されている。 ・今年度も緑のカーテンに取り組んだ。 ・春と秋に実施される桂坂統一クリーンデーの呼応清掃活動として、児童生徒による清掃、教職員による清掃に取り組んだ。	自分なりに・自分の方法で・自分から挨拶できる児童生徒が増えつつある。 言語聴覚士や心理士・情報教育専門家の活用について、支援部を中心に充実し、授業改善が図られつつある。 性教育の実施について、さまざまな場面で相談されるようになってきている。 緑のカーテンの取組では、高等部生徒が役割を分担し、水やり等自主的に取り組むことができた。 冬芝のオーバーシードにおいては、高等部のワークスタディの生徒全員が「働く」学習として取り組んでいる。また、毎週、火曜日に生徒による芝刈りに取り組んでいる。	挨拶の励行は、言語指導・コミュニケーション指導と平行して、言語聴覚士や心理士とも連携し、積極的に推進していく。 「できます会」において、言語聴覚士や心理士の意見や助言も取り入れる等、発達的視点や専門的な視点を踏まて実践を進める。 性教育については、性教育に関する各学部・学年ごとの年間指導計画を作成し、さらに充実を図る。 生け花の取組は一週間であったが、今後、もう少し長期的に取り組んでいきたい。	評価者(いずれかに○) ○学校運営協議会 学校評議員
	・対人関係、コミュニケーション指導の充実	・ケース会議の充実 ・言語聴覚士、心理士、情報教育専門家との相談	・言語聴覚士、心理士、情報教育専門家の活用状況	・各学部の授業において、「お掃除ユニット」、「洗濯ユニット」、「リサイクルユニット」等を編成し、環境・衛生にかかる内容の学習に取り組んでいる。	自分なりに・自分の方法で・自分から挨拶できる児童生徒が増えつつある。 言語聴覚士や心理士・情報教育専門家の活用について、支援部を中心に充実し、授業改善が図られつつある。 性教育の実施について、さまざまな場面で相談されるようになってきている。 緑のカーテンの取組では、高等部生徒が役割を分担し、水やり等自主的に取り組むことができた。 冬芝のオーバーシードにおいては、高等部のワークスタディの生徒全員が「働く」学習として取り組んでいる。また、毎週、火曜日に生徒による芝刈りに取り組んでいる。	自分なりに・自分の方法で・自分から挨拶できる児童生徒が増えつつある。 言語聴覚士や心理士・情報教育専門家の活用について、支援部を中心に充実し、授業改善が図られつつある。 性教育の実施について、さまざまな場面で相談されるようになってきている。 緑のカーテンの取組では、高等部生徒が役割を分担し、水やり等自主的に取り組むことができた。 冬芝のオーバーシードにおいては、高等部のワークスタディの生徒全員が「働く」学習として取り組んでいる。また、毎週、火曜日に生徒による芝刈りに取り組んでいる。	学校関係者評価による意見 学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

1 平成27年度 重点評価項目

- ①キャリア教育の推進
- ②挨拶の励行
- ③体力の向上
- ④家庭・学校・地域の双方向の援助による教育の推進

2 1回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日 平成27年10月21日	評価者・組織 経営者会議	評価日 平成27年9月29日	
3 健やかな体	・健康管理の徹底	・医療的ケア検討委員会の実施 ・登校時の消毒運動 ・スクールバス乗務員への研修実施 ・感染予防教室の新設	・医療的ケアの実施状況 ・登校時の消毒運動の実施状況 ・感染予防教室の利用状況	・医療的ケア検討委員会を随時、開催し、学校医や主治医の意見を参考にしながら、児童生徒の健康・安全管理に努めている。 ・スクールバス乗務員を対象に、障害理解、発作対応などの研修を実施。	⇒	健康観察や体力向上を図る取組などについては、確実に実施し、情報共有を図っている。 毎朝、生徒会の生徒が登校してくる児童生徒の手にアルコール消毒を行う「消毒運動」に取り組んでいる。 感染予防教室については、4月当初にインフルエンザが流行した時期に1名の生徒が利用した。 今年度、快適トイレのストレーナーを低床ベッドに変え、床でおむつ交換を行えるケルームも新設した。 今年度も、高等部のスポーツ部の取組や各スポーツ大会への参加状況も良好であり、活発な活動ができている。 災害時や緊急時の対応について、緊急時対応マニュアルを作成し教職員の共通理解を図っている。 PT・OT等の外部専門家との活用については、支援部を中心に各学部と連携し取り組むことができている。	基本的生活習慣の確立については、生徒指導とも連携し、保護者理解を得ながら取り組んでいく。 登校時の消毒運動については、感染症の流行に関係なく、年間を通して毎日実施する。 感染予防教室については、校区や校内の感染症の流行に合わせ、必要に応じて随時、開設していくたい。 低床ベッドの導入とケルームの新設による教職員の身体への負担を軽減する方策に取り組む。 児童生徒の運動時間の確保、健康的維持増進に引き続き取り組む。 週休日の災害時における安否確認や引き渡し訓練等、具体的な場面を想定した訓練を計画・実施する。	桂坂地区では、桂坂学区民体育祭25周年記念前夜祭を実施する。16自治会の代表が聖火リレーをするので西総合支援学校の生徒にも聖火リレーランナーとして走ってほしい。 地域としても避難訓練を実施したり、物品を備蓄するなど、災害時に備えた対応に取り組んでいる。学校とも連携しながら取組を進めたい。
	・安全管理の徹底	・トイレに低床ベッドを設置 ・ケルームの新設 ・スクールバス乗務員への研修実施	・低床ベッドの活用状況 ・ケルームの活用状況 ・研修の実施状況	・訓練等実施状況 ・避難訓練 2回／年、緊急時シミュレーション 3回／年 ・防犯研修 1回／年、交通安全教室 1回／年 ・京都市リハビリテーションセンターより、毎月1回、PT(理学療法士)・OT(作業療法士)に来校していただき、身体の学習に関する助言をいただいている。				
	・体力の向上	・部活動 ・スポーツ大会への参加	・部活動の充実状況 ・スポーツ大会への参加状況					
	・自立活動の充実	・身体の学習	・身体の学習の実施状況					
	・防災、安全教育の推進	・避難訓練 ・緊急時シミュレーション ・防犯研修 ・交通安全教室	・避難訓練、緊急時対応訓練の実施状況					

平成27年度 学校評価実施報告書

学校名(西総合支援学校)

1 平成27年度 重点評価項目

- ①キャリア教育の推進
 - ②挨拶の励行
 - ④家庭・学校・地域の双方向の援助による教育の推進

2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	評価日	平成27年10月21日	評価日	平成27年9月29日
					評価者・組織	経営者会議	評価者(いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
4 独自の取組	・家庭との連携の促進	・学校運営協議会を年間4回開催し、保護者・地域・関係機関等の協力を得ながら、学校運営協議会主催事業として、「校区地域子交流会」、「芝生まつり」等、様々な取組を実践している。	・学校運営協議会実施状況	・学校運営協議会主催事業として、下記の取組を実施している。 ・わくわくクラブ ・にこにこクラブ ・放課後学び教室 ・校区地域交流会 ・サマースクール ・芝生まつり ・西京区交流卓球バレー大会(後援) ・学校施設等の開放状況	⇒	学校運営協議会にて提案された「西の風」「校区地域交流会」の開催や主催事業等、家庭・学校・地域の双方向の援助による取組が具体的にすすんおり、年々、充実してきている。 校区地域交流会においては、小中学校のPTA本部役員、学校運営協議会委員、育成学級の保護者、管理職も参加され、70名ほど参加される盛會となった。 タブレット型端末を活用した専門家による小中学校の支援では、従来の方では十分でなかったSTによる直接的なアセスメントやリアルタイムでの助言が可能となり、より子どもに適した指導支援が可能となった。	本校の目指している「双方向の援助による新たな地域の創造」について、本校の児童生徒が「地域に生きる一人の生活者」として生き生きとより豊かに生活していくける地域のあり方について、学校運営協議会で具体的に検討し、今後の取組の方向性を確認する。 学校運営協議会主催の取組や各学部・支援部の取組を関連付け、障害のある子どもを支えるネットワークを構築する。さらに、関係諸団体、各種団体の役員だけでなく、一般的な地域住民も巻き込み、障害のある子どもが支え・支えられる面として地域づくりを推進する。	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
	・家庭、学校、地域の双方向の援助による教育の推進	・学校施設の開放については、障害のある方の加盟されている団体を対象に、グラウンド・体育館・生活学習室を開放している。	・学校運営協議会主催事業の実施状況	・合同部活動ソフトボール ・障害者サッカー連盟 JFFID FC アスカ ・卓球バレー(ウエストサイドストーリー) ・FFtoF(障害のある児童バスケットチーム) ・新林太鼓サークル他	⇒	学校運営協議会にて提案された「西の風」「校区地域交流会」の開催や主催事業等、家庭・学校・地域の双方向の援助による取組が具体的にすすんおり、年々、充実してきている。 校区地域交流会においては、小中学校のPTA本部役員、学校運営協議会委員、育成学級の保護者、管理職も参加され、70名ほど参加される盛會となった。 タブレット型端末を活用した専門家による小中学校の支援では、従来の方では十分でなかったSTによる直接的なアセスメントやリアルタイムでの助言が可能となり、より子どもに適した指導支援が可能となった。	本校の目指している「双方向の援助による新たな地域の創造」について、本校の児童生徒が「地域に生きる一人の生活者」として生き生きとより豊かに生活していくける地域のあり方について、学校運営協議会で具体的に検討し、今後の取組の方向性を確認する。 学校運営協議会主催の取組や各学部・支援部の取組を関連付け、障害のある子どもを支えるネットワークを構築する。さらに、関係諸団体、各種団体の役員だけでなく、一般的な地域住民も巻き込み、障害のある子どもが支え・支えられる面として地域づくりを推進する。	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
	・学校施設等の開放	・育支援センターのこれまでの小中学校への支援内容は、主にアセスメント等の相談や情報提供にとどまっていた。今回の事業では、PT・ST等の専門家による小中学校へのサポート体制を充実し、小中学校在籍者へのより直接的で個別の指導・支援の実現をめざす。	・福祉施設等との連携状況	・連絡帳記載事項や参観日の保護者アンケート	⇒	学校運営協議会にて提案された「西の風」「校区地域交流会」の開催や主催事業等、家庭・学校・地域の双方向の援助による取組が具体的にすすんおり、年々、充実してきている。 校区地域交流会においては、小中学校のPTA本部役員、学校運営協議会委員、育成学級の保護者、管理職も参加され、70名ほど参加される盛會となった。 タブレット型端末を活用した専門家による小中学校の支援では、従来の方では十分でなかったSTによる直接的なアセスメントやリアルタイムでの助言が可能となり、より子どもに適した指導支援が可能となった。	本校の目指している「双方向の援助による新たな地域の創造」について、本校の児童生徒が「地域に生きる一人の生活者」として生き生きとより豊かに生活していくける地域のあり方について、学校運営協議会で具体的に検討し、今後の取組の方向性を確認する。 学校運営協議会主催の取組や各学部・支援部の取組を関連付け、障害のある子どもを支えるネットワークを構築する。さらに、関係諸団体、各種団体の役員だけでなく、一般的な地域住民も巻き込み、障害のある子どもが支え・支えられる面として地域づくりを推進する。	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
	・学校運営協議会の充実	・タブレット型端末を活用した小中学校でお専門家による直接支援の状況			⇒	学校運営協議会にて提案された「西の風」「校区地域交流会」の開催や主催事業等、家庭・学校・地域の双方向の援助による取組が具体的にすすんおり、年々、充実してきている。 校区地域交流会においては、小中学校のPTA本部役員、学校運営協議会委員、育成学級の保護者、管理職も参加され、70名ほど参加される盛會となった。 タブレット型端末を活用した専門家による小中学校の支援では、従来の方では十分でなかったSTによる直接的なアセスメントやリアルタイムでの助言が可能となり、より子どもに適した指導支援が可能となった。	本校の目指している「双方向の援助による新たな地域の創造」について、本校の児童生徒が「地域に生きる一人の生活者」として生き生きとより豊かに生活していくける地域のあり方について、学校運営協議会で具体的に検討し、今後の取組の方向性を確認する。 学校運営協議会主催の取組や各学部・支援部の取組を関連付け、障害のある子どもを支えるネットワークを構築する。さらに、関係諸団体、各種団体の役員だけでなく、一般的な地域住民も巻き込み、障害のある子どもが支え・支えられる面として地域づくりを推進する。	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
	・特別支援学校のセンター機能充実事業				⇒	学校運営協議会にて提案された「西の風」「校区地域交流会」の開催や主催事業等、家庭・学校・地域の双方向の援助による取組が具体的にすすんおり、年々、充実してきている。 校区地域交流会においては、小中学校のPTA本部役員、学校運営協議会委員、育成学級の保護者、管理職も参加され、70名ほど参加される盛會となった。 タブレット型端末を活用した専門家による小中学校の支援では、従来の方では十分でなかったSTによる直接的なアセスメントやリアルタイムでの助言が可能となり、より子どもに適した指導支援が可能となった。	本校の目指している「双方向の援助による新たな地域の創造」について、本校の児童生徒が「地域に生きる一人の生活者」として生き生きとより豊かに生活していくける地域のあり方について、学校運営協議会で具体的に検討し、今後の取組の方向性を確認する。 学校運営協議会主催の取組や各学部・支援部の取組を関連付け、障害のある子どもを支えるネットワークを構築する。さらに、関係諸団体、各種団体の役員だけでなく、一般的な地域住民も巻き込み、障害のある子どもが支え・支えられる面として地域づくりを推進する。	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
					⇒	学校運営協議会にて提案された「西の風」「校区地域交流会」の開催や主催事業等、家庭・学校・地域の双方向の援助による取組が具体的にすすんおり、年々、充実してきている。 校区地域交流会においては、小中学校のPTA本部役員、学校運営協議会委員、育成学級の保護者、管理職も参加され、70名ほど参加される盛會となった。 タブレット型端末を活用した専門家による小中学校の支援では、従来の方では十分でなかったSTによる直接的なアセスメントやリアルタイムでの助言が可能となり、より子どもに適した指導支援が可能となった。	本校の目指している「双方向の援助による新たな地域の創造」について、本校の児童生徒が「地域に生きる一人の生活者」として生き生きとより豊かに生活していくける地域のあり方について、学校運営協議会で具体的に検討し、今後の取組の方向性を確認する。 学校運営協議会主催の取組や各学部・支援部の取組を関連付け、障害のある子どもを支えるネットワークを構築する。さらに、関係諸団体、各種団体の役員だけでなく、一般的な地域住民も巻き込み、障害のある子どもが支え・支えられる面として地域づくりを推進する。	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策